

# 協議会だより

京都府農地・水・環境保全向上対策協議会

発行 京都府農地・水・環境保全向上対策協議会

発行担当者 協議会事務局 京都府土地改良事業団体連合会

TEL 075-451-9633 FAX 075-414-2777

602-8054 京都市上京区出水通油小路東入丁子風呂町104番地の2 京都府庁西別館

## 知事と和いミーティング

梅雨入りまぢかの六月九日、綾部市東部十倉において地域の活動組織「十倉地域資源環境保全組合」と山田啓二京都府知事との協働(共同)活動と意見交換会が行われた。

当日は開始直前まで激しい雷雨があり中止かと思われたが、山田知事が田んぼに足を踏み入れるのを見計らうように雨が上がり、トラクターによる耕耘作業と排水路の草刈りに知事自ら地域の人と一緒に汗を流した。

小学生二十人と知事とのグラジョオラスの球根植え作業は土の状態が悪く中止となった。山田知事は、トラクターを運転するのは初めての体験とのことでしたが、農家の指導を受けながら約五十メートルを無事に耕耘した。また、草刈り機も初めての経験



で、農家の方から「刈り残しのないように丁寧に刈るのがコツです」との助言があった。



山田知事の草刈り後のコメントは、「思った以上に難しいですね。腰が痛い」。

この後会場を近くの公民館に移して昼食(おにぎり、みそ汁、漬け物)と意見交換会が行われた。



活動組織の代表・〇〇〇〇さん(水土里ネット十倉理事)からは、地域の概要の説明に続いて、「みんなが一緒に汗を流しながら作業をし、昔のように一杯飲みながらまさしくわいわいと、地域の賑わいを取り戻したい」「身近なできることから、まずこの地域から都会に移り住んでいる人たちとの交流をしたい」とあつく語った。活動組織副代表の〇〇〇〇さん

## 特集

### 山田知事が協働(共同)作業に参加

綾部市十倉地域の活動組織「十倉地域資源環境保全組合」と山田啓二京都府知事との『知事と和い和いミーティング』と

(自治会長・市連合自治会副会長・

水土里ネット十倉副理事長)は、「団塊世代の定年退職者が地域に帰って来てくれるのかどうかの情報もない。五年後十年後田畑がどうなっているのか心配」「空き家はあるが、先祖からの墓や仏壇があり、簡単には他人に貸せない、というそれぞれ事情もある」と田舎での現状と問題点を提起した。

山田知事は、淡路島出身で今でも家と農地があるが、集落に迷惑をかけないようにとの思いがあり、自身も人に預けていて農家の苦悩がよく分かるとうなずいていた。

地域の非農家に嫁いで二十数年になる〇〇〇〇さんは、いろいろな活動に積極的に参加しているが、「ムリせずになんばりすぎないように、との地域の人たちの温かいアドバイスに助けられながら、出来ることから参加できる自治会の雰囲気感謝している」と集落の温かい思いやりのこころ

## 事務局からのお知らせ

◎ 活動組織からの

**採択申請書の事務局受付期限は、8月31日**です。

8月31日までに協議会事務局に届くようお願いいたします。詳しいことは、市町村の担当課等にお問い合わせ願います。

◎ この対策の概要は、下記のホームページで公開されています。

全国水土里ネット <http://www.inakajin.or.jp/midorihozen/>  
農林水産省 [http://www.maff.go.jp/nouti\\_mizu/index.html](http://www.maff.go.jp/nouti_mizu/index.html)

がこの地域の誇りであると話した。



〇〇〇〇さんは、口上林全域の農地に堆肥を入れるなどエコファーマーの仲間と環境に優しい農業に取組んでいる。「後継者がいないので十年後どうなっているのか、と将来に不安がある。また有害鳥獣の捕獲に補助金が出るがもっと使い勝手のいい制度に出来ないか」と要望した。



〇〇〇〇〇〇さんは、今回の参加者の中で最高齢だが、まだまだ若く担い手農家としてだけでなく林業家としても活躍している。「ほ場整備を契機に昭和四十七年から上林川の堤防を地権者と耕作者が一緒に

なっているが、今年からは地域ぐるみの共同活動として取り組むことが出来、地域の活性化につながる」と事業を高く評価した。



地域内の就農者向け菜園つき農村住宅「樺の里」に住む〇〇〇〇〇〇さんは、福岡出身、大阪でサラリーマンをしてきたが、



定年退職を機に綾部に転居。「西日本

本の多くの自治体の田舎暮らしの情報に触れたが、綾部を選んだ理由は、自治体職員の見取り姿勢に熱意を感じたから。市民農園にも取組み、三年たつて田舎暮らしに夫婦共に熱意が出て、充実した日々を過ごしている」



〇〇〇〇〇〇さんは、関東地方で会社員をしてきたが、一人暮らしの母が心配でもあり帰ってきたUターン組。十倉の活動に刺激されて森井さんの集落でもこの事業に取り組んでいる。



〇〇〇〇〇〇さんは、畜産農家としてUターン。仲間四人とエコファーマークラブを立ち上げ現在会長としてリーダー的存在。「循環型農業を目指し、堆肥を農地に還元することにより地域と深いつながりが出来てきた。休耕地を借りてえさづくりにも取り組んでいる」と夢の実現にむけた決意を語った。

山田知事は、「集落を維持していくには、みんなの力を合わせる工夫が必要であり、農家と非農家が一体となって地域の環境を守るといふ観点から取り組まないといけない。単に農業という産業としてだけでとらえるのではなく、この事業により地域を守るといふ観点を

## 地域ぐるみの協働活動で 農村コミュニティを再生



から町内会や組合に交付金が出る仕組みが出来たことは、地域再生、コミュニティ再生にとつて大きな進歩である。府としてもこの事業の一・五億円に加えて地域力再生の予算として三億円を予算化しており、市町村振興基金の二億円と合わせてどんどん活用してほしい。地域の活動に出来る限り支援していく」とメッセージを発信した。

### 協議会刊行物

協議会では下記のパンフレット等を印刷しました。ご入り用の方は、市町村、京都府広域振興局、京都府耕地課、協議会事務局までご連絡願います。

- ◆早わかり 地域ぐるみで農と環境を守ろう！(平成19年2月)
- ◆活動組織の事務手続マニュアル(共同活動支援交付金)(平成19年4月)
- ◆活動組織の事務手続マニュアル<part. 2>(共同活動支援交付金)(平成19年4月)
- ◆活動組織の事務手続マニュアル(別冊)(営農活動支援交付金)(平成19年4月)
- ◆活動組織の事務手続マニュアル(別冊2)(営農活動支援交付金)(平成19年4月)
- ◆写真の撮影方法等マニュアル(共同活動支援交付金)(平成19年4月)
- ◆履行確認マニュアル(共同活動支援交付金)(平成19年4月) 一市町村担当者向け一